

祝

なはセン通信100号記念座談会



嬉しい
めえー

なはセン通信



2024年
12月号

目次

- なはセン通信100記念座談会 1
- イベント・講座 2
- 協働のパートナーシップセッション 3
- なは活動支援センターについて 4

問い合わせ

なは市民活動支援センター
098-861-5024
C-KATU005@city.naha.lg.jp

なはセン通信第100号を迎えるにあたり、歴代編集者に『なはセン通信』への想いをインタビューし、座談会を開催しました。なはセン通信は、なは市民活動支援センター（以下、「なはセン」）の広報誌として、今から8年前の2016年にスタートしました。

初代編集者は、眞喜志さやかさん。

当時は、まだ施設の認知度もあまりなかったことから、写真を多く活用し、職員の顔や施設の様子など施設が市民に開かれた場所であることを意識して、編集したそうです。また、当時、今以上に馴染みのなかった『市民活動』という言葉についても、市民に分かりやすく、かつ、活動の一步を踏み出してもらえよう、なはセンの事業紹介や事業への参加を促す記事を多くしたとのことでした。

2代目編集者の大ヶ島首里さんは、眞喜志さんから通信制作のエッセンスを引き継ぎつつ、より充実した市民活動の情報発信の1つとして、『市民活動のヒントに！今月の本』の紹介を始

めました。また、地域イベントに実際に赴き、取材したことがとても思い出に残っているとのことでした。取材の予定が、気づいたら自分もお手伝いとしてイベントに参加していたこともあったそうです。しかし、その現場にいたからこそ、地域の温度感や人の想いなどに触れることができ、「地域の活動」を伝えることが、なはセン通信をはじめ、なはセンのできることだと熱いメッセージをいただきました。

次に、3代目編集者の吉田佐和子さんは、これまでの那覇市の市民活動や協働の取り組みが詰め込まれたなはセン通信をより多くの人の手元に届くよう、配送先を増やすことやなはセン通信の用紙をカラー化し、目につくようにするなど、多くの工夫を凝らしたそうです。そうした工夫が引き継がれ、毎月色違いの用紙でなはセン通信を発行しています。

そして、4代目編集者は西島千賀子さんです。2019年度から2023年度まで、最も長くなはセン通信の編集担当を務めました。その中でも第3

6号からシリーズ化した「何をしているトコですか？」という市民活動団体紹介のシリーズは思い出深く、各団体の代表へのインタビューや現場取材を繰り返し、各団体の想いを限られた文字数の中で分かりやすく紹介することについて苦労したそうです。しかし、その一方で記事を読んだ読者から問い合わせがあった時や団体から感謝された時の喜びはとても大きかったとのことでした。

今回、第100号を記念として、歴代の編集者にインタビューをしました。その中で、それぞれが共通して大事にしていたことは、「なはセン通信が市民活動の入り口になるように」という視点でした。

何気なくやっていた自分の行動が、誰かのためになる。そして、個の力が地域の大きな可能性となり、市民活動として広がっていく。そのきっかけの一つとして、なはセンがある。なはセン通信を通して、市民活動の一步を踏み出そうとしている人、そして、まだ地域での可能性に気づいていない人へ、役立つ情報や人々の想いを届けることの大切さと楽しさを歴代編集者の皆さんに教えていただきました。私（5代目）もその想いを引き継いで、引き続き情報発信に努めていきます。

（高橋 海奏）

イベント・講座

◇若狭地域における部活の地域移行を考える地域円卓会議

10月27日(日)に、若狭公民館にて、「若狭地域における部活動の地域移行を考える地域円卓会議」を一般社団法人琉球フィルハーモニック(以下、「琉球フィル」と那覇市との共催で開催しました。

まず、琉球フィルハーモニック代表で那覇中学校吹奏楽部の部活動指導員でもある上原正弘氏より中学校部活動の現状報告がなされました。その後、学校教育課職員や那覇中学校吹奏楽部部長(生徒)をはじめとする様々なステークホルダーによるそれぞれの立場からの現状報告や意見表明が行われました。

このテーマは、教員の負担軽減、子ども達の体験保障、スポーツや文化活動の価値や位置付け、地域づくりなど様々な問題があります。子ども達がスポーツや文化芸術を体験し、楽しく過ごす機会を作るために、環境をどう整えていけるか、様々なセクターとの話し合い、協働が必要だという認識では一致したように思います。

フロア参加者からの「地域移行」という言葉は丸投げのようでしつくりこない、「地域展開」や「地域連携」という言葉の方が子どもを学校と地域の皆で育てるという理念に当てはまるし、拠点を学校にせざるをえない点でも現実的、という意見が出たときは、フロアの納得感が高まりました。

また、参加者が小グループに分かれて、自由に意見交換を行い、新たな気づきや発見が得られたことは、この課題について社会皆で考える一歩を踏み出したように思います。

次年度、琉球フィルは、地域移行のモデ

ルケースになるために、SIB(ソーシャルインパクトボンド)の出資を広く市民から募集することを予定しています。この活動をぜひ多くの皆さまに知っていただき、応援していただきたいと思っています。



◇安岡中学校ボランティア

10月4日(金)に、那覇市立安岡中学校2年生のみなさんが、なは市民活動支援センターにおいてボランティア活動を行いました。センター会議室の清掃の他、非営利団体「共育ステーションつむぎ」のベビー服の仕分け作業を行いました。安岡中学校のみなさん、ありがとうございました！



◇SDGs パスポート授賞式

10月25日(金)に、SDGs パスポート社会活動認定証授与式が行われました。沖縄県ユネスコ協会より《30ボラン》のボランティア活動を行った児童生徒へ「SDGs パスポート社会活動認定証」が授与されました。児童生徒6名は、「一

般社団法人地球となかよし」でビーチクリーン活動に取り組み、今回の認定証授与となりました。受賞された皆さん、おめでとうございます！

※30ボランとは…

活動時間の単位で、「ボラン」はボランティアの短縮形です。

1日のボランティア活動のうち、45分から2時間未満の活動は「1ボラン」、2時間以上の活動はすべて「2ボラン」となります。

※SDGs パスポートとは…

あなたのボランティア活動を記録として残すことができるパスポートです。30ボランで沖縄県ユネスコ協会の認定証がもらえます。



◇ボランティア講座

10月29日(火)なは市民活動支援センターにおいて、社会福祉法人那覇市社会福祉協議会前川三奈氏、山城瑞穂氏を講師に迎え、子どもの居場所ボランティア講座が開催されました。

「子どもの居場所」の運営は、法制度で定められた活動ではなく、届け出や登録が必要ないため、自由で多種多様な活動が生まれることが最大の魅力であることや、沖縄県における子どもの貧困の現状、そして子どもの居場所が地域に必要な理由などが紹介されました。

また、那覇市社会福祉協議会は、那覇市

からの受託事業として子どもの居場所「子どもと地域をつなぐサポートセンター糸」(以下、「サポートセンター糸」)を運営しており、現在67の居場所が食事の提供や学習支援、体験活動、多世代交流など多様な活動を行っています。

サポートセンター糸では、子どもの居場所への支援を通して、その先にいる子どもたちにプラスになる環境を作り、子どもの居場所も孤立させないことを大切にしており、貧困であつてもなくても、すべての子どもに居場所が必要なことや、居場所での「交流」、子どもたちの不安や悩みに気付く「予防」の必要性が語られました。

講座の中盤では、「子どもの居場所アツプ」の代表者である眞栄城かおり氏と、ボランティア人材として同団体で活動している川端叶和氏から、活動を行う上で気を付けることや活動の様子が伝えられ、受講生の皆さんが熱心に聞き入っていました。

ボランティア活動を行うにあたり備えてとしての保険やボランティアコーディネーターの流れ、ボランティアにおける注意点なども紹介され、受講生の皆さんからは「ボランティアの現状や心構えが理解できて良かった。」等の感想が寄せられました。



協働のパートナーシップ セッション

協働に学ぶこれからの 地域づくりのヒント



那覇市は、10月26日、27日の2日間にわたり「協働パートナーシップセッション」を開催。このイベントは市民と共に、協働によるまちづくりの理解を深める目的で企画され、市役所本庁舎1階ロビーを会場に、延べ200人近い参加者が集まりました。また、市長や教育長、行政職員も参加した本イベントは、市民と行政が一つのテーブルを囲んで意見を交わし合う貴重な場となりました。

1日目は、「協働に学ぶこれからの地域づくりのヒント」というテーマで、高崎経済大学の櫻井常矢教授を招き、講義を実施。櫻井教授は、協働の重要性や小学校区ごとに進める地域づくりのポイントについて解説し、市民と行政職員が協働の意義や目的について学びを深めました。特に、小学校区単位で運営される「小学校区まちづくり協議会（以下、校区まち協）」の活動について理解を深め

めることで、地域運営組織としての役割や可能性に対する認識が共有されました。

続く2日目では、先進地事例として、兵庫県明石市の取り組みや西宮市のエリアマネジメント事例が紹介され、これらの事例を参考に、那覇市においても校区まち協が地域づくりの中心的な役割を果たすことが期待されています。また議論では、校区まち協を進めるためのビジョン、地域で活躍するコーディネーターの育成、活動を展開する拠点の重要性など、多岐にわたる課題が取り上げられました。二日間を通し、参加者は互いを尊重し合いながら和やかな雰囲気の中で、本音で意見を交わしました。今回のセッションをきっかけに、多くの市民・行政職員が協働に対する理解を深め、協働によるまちづくりの輪がさらに広がることが期待されています。



NEW

ボランティアのススメ

ボランティアしたい個人・ボランティアをしたい団体とボランティアを求める団体とのマッチングを行い地域社会の課題解決につなげます！



ボランティアをしたい個人、ボランティアをしたい団体、ボランティアを求める団体は那覇市人材データバンクへご登録をお願いします。

詳しくは那覇市HPをご覧ください↓

◆那覇市人材データバンク (ボランティアマッチング)

ボランティア情報は
こちらから



講座・イベント



次回開催は... **12/14**
毎月第2土曜日開催 **11:00~15:00**

(場所：なは市民協働プラザ 1Fピロティー)

2024年度 なは市民協働大学院 最終成果発表会

12/7(土) 14:00-17:00

場所：なは市民活動支援センター 会議室1



入場
無料

予約
不要

なは市民活動支援センターについて



◆駐車場について・・・

なは市民協働プラザ地下駐車場（駐車台数：39台）
メカルパーキング（駐車台数：70台）
※なは市民活動支援センターをご利用の場合、駐車料金は減免の対象となります（例：2時間100円、3時間200円）

◆開館時間、休館日

月・火・木・金	9：00-21：00
水・土・日	9：00-17：00
休館日	年末年始・慰霊の日

◆施設利用料金 ※1時間当たりの料金 ※オンライン機材貸出可

	定員	面積	料金	冷房
会議室①	84人	約200㎡	1,300円	400円
会議室②③	80人	約200㎡	1300円	400円
会議室③	30人	約100㎡	650円	200円
会議室④	8人	約40㎡	200円	100円
会議室⑤	12人	約30㎡	200円	100円
会議室⑥	12人	約30㎡	200円	100円
会議室⑦	5人	約30㎡	200円	100円
会議室⑧	20人	約45㎡	250円	100円
研修室①	16人	約30㎡	200円	100円
研修室②	16人	約30㎡	200円	100円

◆めかる学習ステーション

開館時間中、なは市民活動支援センター 2階を学生・社会人向けの自習スペースとして開放しています！
それぞれの学習ペースに合わせてご活用ください。

貸し出し中！

なはセンお薦め図書

つくること、つくらないこと

町を面白くする11人の会話

編著：長谷川浩己、山崎亮

地域づくりや町を面白くするきっかけはひょんな会話から生まれてくる場合があります。
町を面白くする会話では「つくること、つくらないこと」という選択があり、地域に風を吹かせる人たちが会話の中でその選択をどのようにしていくかこの本の中で垣間見ることが出来ます。また、11人の会話の中から、町をデザインする上で地域の生い立ちを知るこの大切さや意義について立ち返るきっかけとなる一冊です。
文章の構成も、まるで目の前で彼らの会話が繰り広げられているような構成なので、一気に読み終えてしまえると思います。



◆市民活動よろず相談

那覇市における市民活動に関する相談サービスです。
なお、相談希望の場合は原則予約制となっております。ご予約は、QRコードよりお願いいたします。

～相談日時～
月・水・土
10：00～17：00
金
14：00～20：00



年末年始の休館について

- 12月27日(金) “午後”
- 12月29日(日)
- ～2025年1月3日(金)
- 1月13日(月) 成人の日
※電気点検のため

